|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 科目名 | 年度 | レポート番号 | クラス | 学籍番号 | 名前 |
| API実習 | 2023 | 5 | B | 20122034 | 駒木根通元 |

ページ数や文字数よりも、読んでわかりやすく書けているかどうかが、点数アップの分かれ目です。  
APIを使ったアプリやゲームが作ったけど「動きませんでした、完成しませんでした」は評価に値しません。 単位取得は、きちんと動くものが評価対象です。 APIを使うこと、そしてプログラミングは１年生からの講義で学ぶことをすべて活用すれば実現できるはずです。

# 設問(1)

この科目で学んだ内容を第3者(他学部の学生や親など)にわかるように説明せよ。

専門的な知識がないと使えないシステムを誰もが少し頑張れば使えるように作り変えたものがAPIである。APIにはさまざまな種類がある。APIの開発はとても難しい。普通の人間には開発できないもの。

# 設問(2)

レポート(4)をもとに、API連携作成またはAPIを用いたサービス開発結果を書いてください。何かしら動くものが出来ている前提です。

## 名称

コマコメ

## 概要(作ったものの説明)

スマホで使えるアプリ。学校の授業のレビューを書いて投稿でき、さらに他の学生が投稿したレビューを閲覧できるアプリ。

※提出時にはこの注釈を消してください。どんな連携なのか、どんなサービスなのか説明文をわかりやすく書いてください。

## サービス説明(動作がわかるように画面を交えて説明すること)

※提出時にはこの注釈を消してください。実際に動作している様子がわかる画面ショットを交えて、各機能や特長を説明してください。

## レポート(4)の記載内容の実現状況（原則100%となること）

※提出時にはこの注釈を消してください。レポート(4)で書いたとは、レポート(5)ですべて実装されているはずなので、「すべて実装済みであり、動作確認済みである」となるはずです。